2026 年 9 月 1 日発行
2026 年 9 月 30 日更新
2026 年 11 月 1 日更新

2027 年度
経済学部ゼミナールガイドブック

明治学院大学経済学部

2027 年度　経済学部
ゼミナールガイドブック

明治学院大学経済学部

目　　次

演習のすすめ　…　2
教員によるゼミの紹介　…　3〜34

経済学科	頁
大村真樹子	3
神山恒雄	4
クナパスット　ワリヤ	5
神門善久	6
児玉直美	7
小林正人	8
齋藤弘樹	9
坂本陽子	10
白井誠人	11
高松慶裕	12
田中鉄二	13
土屋拓也	14
中野聡子	15
中村友哉	16

経営学科	頁
五十嵐千尋	17
稲山健司	18
尾畑裕	19
佐藤成紀	20
西村三保子	21
浜口幸弘	22
森田正隆	23
吉田真	24

国際経営学科	頁
渥美利弘	25
李惠源	26
井川ジェニファー	27
大野弘明	28
岡崎哲二	29
工藤健太	30
藤田晶子	31
マイヤーオーレ	32
松園保則	33
山田純平	34
西原博之※3 次募集	

演習のすすめ

2026 年 9 月 1 日
経済学部長　齋藤隆志

演習は、大学生活の中でも最も重要な活動として位置づけられるものです。これまで皆さんは、少人数クラスも含んだ多くの授業で知識やスキルを身に付けてこられたと思われますが、それは演習で活かすためであるといっても過言ではないと思います。

大学教員の主な役割は、研究論文や書籍を執筆するという知的生産を行うことと、学生の皆さんを教育することですが、教える内容は結局のところ自分の知的生産と深く結びついています。主に知識を伝える大人数講義であってもその本質は変わりませんが、教員の研究スタイルを教員のすぐそばで濃密に学べる機会は演習以外にはありえません。したがって、教員から多くのことを吸収するには、演習に参加するのが最も優れた手段になります。

研究スタイルといっても様々なものがあります。抽象的な数理モデルを構築するものや、データを収集して統計的な分析を行うものや、現場に出て行って色々な人の声を聞くものや、文献を深く読み解いていくものなどが挙げられます。どんなスタイルであれ、これまでの学修の成果を活かして、演習で教員の研究を追体験することで、皆さんが今後どのような人生を歩むにしても必要な知的体力を培うことができます。

それと同時に、演習では教員や受講生と、深く付き合う機会を得ることができます。演習はアウトプットの機会が多いので、準備のために集まるでしょうし、懇親会や合宿、先輩・後輩や他大学との交流があることも多く、授業時間以外に接する時間が長くなるからです。時としてぶつかり合うこともあるでしょうし、煩わしいものと感じられるかもしれませんが、のちのち良い思い出になるものです。これも人生経験だと思ってぜひ向き合ってみてください。

本ガイドブックは、教員が演習でどんなテーマを扱うのか、どんなスタイルで学修・研究を進めていくのかを紹介しています。皆さんが自分にぴったりだと思う教員の演習を選択し、そこから多くのことを得て、充実した大学生活を送る一助となれば幸いです。

大村　真樹子　ゼミナール

演習のテーマ

Health Economics　健康医療経済学

演習の内容

健康・医療は私達の幸福・厚生にとり重要な要素です。私たちが健康や医療に関してどのような意思決定をするのか、また、医療需要や供給の社会的仕組みや、健康保険制度、公衆衛生や外部性、現在バイアスなど、関連する私達の行動を理解することは、私たちの厚生の改善も重要です。

学びの内容:

- **医療制度の経済分析:** 医療システムの社会的コストと利益のバランスは？健康保険制度の多様性と情報の非対称性から生じる問題はどのようなものか？
- **健康財の価値と特殊性：**健康が他の財とどのように異なるのか？また、健康を重視する人々とそうでない人々の違いは何か？健康投資とは？
- **健康における行動経済学:** 健康への悪影響が明らかであるにも関わらず、なぜ人々が喫煙を続けるのか？ファストフード摂取減等の予防行動の経済的意味合いとは？
- **加齢と健康:** 加齢と健康の関係とは？健康資本は時間とともにどのように価値を減じるのか、そしてそれが個人の健康決定にどのように影響するのか？

ゼミナールの進め方:

- **アクティブなディスカッションとプレゼンテーション:** 3 年次では、Bhattacharya, Hyde, Tu 著『Health Economics』（邦訳未発行の英語教科書）の担当箇所を、ゼミ同士協力して準備・発表し、そして討論に積極的に参加することが求められます。3 年次の後半から、4 年次で本格的に取り組む卒業論文の準備に取り組み始めます。
- **ゼミ合宿：**通常夏季休暇中に 2 泊 3 日のゼミ合宿を実施し、ゼミ生同士の親睦を深めます。

重要スキルの育成:

- **複雑なアイデアの表現:** 様々な経済分析手法を学び、かつこれらを分かりやすく、正しくかつ効果的に表現する―論文を書く・発表をする―力を身につけます。
- **知的好奇心と視野の拡大:** 多様な「健康・医療」問題に対する造詣を深め、これらを批判的かつ経済的に考察することで知的好奇心を養います。
- **英文献読解：**報告等により、英語の経済学文献の読解力がついてきます。
- **適切な引用方法を学ぶ：**論文検索・文献引用・文献ソフトの利用等も学びます。

計量ソフト利用：本ゼミナールでは、統計学の基礎があることを前提に STATA の利用方法を最低限カバーします（4 年春学期)。

神山　恒雄　ゼミナール

演習のテーマ

近代日本経済史(幕末開港～第二次世界大戦)

演習の内容

近代の日本経済(幕末開港～第二次世界大戦)について検討します。

欧米の圧力で幕末に自由貿易が始まると、それまで鎖国により海外から遮断されていた日本は、強大な欧米資本主義国からの外圧に対抗して、独立を維持しながら資本主義化を達成して列強の仲間入りをしました。しかし、他の列強との競争のなかで日本の経済勢力圏を拡大するために対外侵略を進めた結果、第二次世界大戦により日本経済は崩壊したのです。

こうした近代日本経済史を学ぶ意義は、現代とは本質的に異なる側面を持つ近代日本経済の実態を解明することで、現代日本経済を相対化してその特徴を理解することにあります。

そこで３年次では、まず基礎的な知識を習得するために、近代日本経済史の展開を大筋で把握できる概説書を講読します。その上で、特定の分野や時期を対象とする最近の研究書・論文(たとえば明治期の鉄道史)を講読することで、日本の資本主義化が可能になった条件を考察します。

４年次では卒論を作成します。テーマは近代日本経済史に関するものについて、参加者各自の関心に基づいて決めます。その上で、先行研究や利用可能な史料を収集・読破して卒論の執筆を進めるのですが、演習では進捗状況に応じて中間報告と個別相談を行います。卒論執筆には一定の準備期間が必要ですので、どのようなテーマで卒論を書きたいか、早くから考えておくことが重要です。

なお演習は毎回担当者を決めて発表形式で行いますが、発表担当者以外の参加者も討論に積極的に参加するために予習が不可欠です。また合宿などゼミの行事に積極的に参加・協力してください。

演習に関する質問は E-mail を利用してください。オンラインでの面談の必要があれば日時を相談します。(アドレスは kamiyama@eco.meijigakuin.ac.jp)

クナパスット　ワリヤ　ゼミナール

演習のテーマ

現代世界と国際社会 ～ The Contemporary World and International Society ～

演習の内容

In this seminar, students will explore current economic developments and international affairs through English-language news sources such as the BBC, Reuters, and The Economist. Each week, we will read and listen to selected news articles, preferably on economic topics, while learning important vocabulary and technical terms used in international news and economics.

Topics will cover a wide range of regions, including the United States, Europe, Asia, South America, and others, depending on current events and students' interests. Examples may include Trump's tariff policies and trade disputes, the US-Iran war and the Strait of Hormuz, Russia and Ukraine war, global inflation and interest rates, technological developments such as AI, natural disaster or climate-related economic issues, and other major economic and political events of the week.

In the third year, students will be divided into small groups and take turns presenting important international news each week. we will read (and sometimes listen) to the materials together and work on interpreting and understanding their content. Discussions will be conducted in either English or Japanese, and group discussions will be incorporated into the class activities.

In the fourth year, students will apply the knowledge and skills developed through the seminar to conduct independent research on a topic related to international affairs, economics, or other issues of their interest. Students will identify a research question, collect and analyze relevant information and data, and develop their arguments based on academic and reliable English-language sources.

This seminar is recommended for students who are interested in international news and current affairs or wish to improve their English skills.
Active participation in class is expected from all students.

神門　善久　ゼミナール

演習のテーマ

経済学の基礎

演習の内容

参加者の希望に応じて弾力的に内容を決める。経済学を超えて一般的な論述における基礎を重視する。

児玉　直美　ゼミナール

演習のテーマ

政策評価

演習の内容

情報技術の発展によって、大量のデータ（ビッグデータ）が入手できるようになってきました。「政策評価」は、国や地方自治体の「政策」をデータを使って評価するだけではありません。政策評価の方法を習得すれば、「どんな広告戦略を採用すると売上が上がるのか？」「社員の仕事の効率を上げるためにどんな方法が良いか？」「補助金にはどの程度の効果があったか？」「教育現場で、どの教材が効果があったか？」という問題にも答えることができます。近年、インターネット関連のハイテク企業だけでなく、多くの企業で、ポイントカードデータ、POS、スマホのメッセージや SNS を利用したダイレクト、リアルタイムに行う広告や販促が一般化しています。「政策評価」は、単にビッグデータが使えればできるわけではありません。機械学習などの手法で、巨大なデータを事後的に分析するだけでは、なぜそのようになったかというメカニズムの部分はブラックボックスになってしまいます。理論や先行研究を踏まえた仮説を組み立て、因果関係を明らかにする方法を習得しませんか？

このゼミの目的は、**計量経済学を使って、様々なデータから自分のオリジナルな発見をすること**です。公務員やコンサルを目指す人だけでなく、民間企業でマーケティングや新企画を立ち上げる時に、政策評価の知識とスキルは役に立ちます。データを駆使して自分で考える能力を養ってみませんか？この能力を活かし、各自、興味のある社会のメカニズムについて研究を行います。経済学の考え方を基本としますが、法律、経営、マーケティング、福祉、環境、スポーツ、趣味など、様々な視点を絡めて柔軟に考え、議論してください。

最初は座学での学習と実際のデータ分析を通じて分析感覚を養います。本格的な研究はグループワークで行い、統計分析ソフトの習得も含めて、約半年じっくり行います。研究成果はプレゼンテーション訓練を徹底的に行った上で、学内（ゼミ内、他ゼミ）、学外（他大学との合同ゼミ）で発表します。発表前には、グループで、ゼミ以外の時間に集まって準備することもあります。その他，ゼミ生の希望に応じて，ゼミ合宿、他大学との発表会や合宿、懇親会、スポーツ大会なども行う予定です。ゼミ運営は「一人一役」で業務を分担します。ゼミの時間以外での活動も多いので、卒業後も付き合っていかれるような仲間に出会えることは間違いありません。ゼミ活動、課外活動に積極的に関わる学生の参加を期待しています。

小林　正人　ゼミナール

演習のテーマ

Python によるデータ分析

演習の内容

コンピュータ言語 Python を学び、データ分析に応用していきます。

３年次だけになりますが、python や pandas の文法を学んだ後、『データサイエンス 100 本ノック構造化データ加工編ガイドブック』等の教科書を選び、基本的なスキルを練習します。

Python は社会調査やマーケット調査などの大規模なデータ処理に適しているにもかかわらず、文系で使える人はまだ少ないので、習得することのメリットは大きいと思います。

齋藤　弘樹　ゼミナール

演習のテーマ

ゲーム理論とその応用

演習の内容

【重要：本ゼミはＡゼミであり、卒業論文の執筆を前提とするゼミです。】

本ゼミでは、ゲーム理論やミクロ経済学などの関連分野・応用分野を中心に学びます。3 年次は、例年グループワークが中心となり、グループごとにテーマを選択し、自由な形式で報告・討論をします（ただし人数によってはゼミ形式の変更の可能性があります)。報告については、文献をスライドに丸写ししてそのまま読むだけのようなものではなく、自身でしっかりと内容を理解し、自身の言葉でわかりやすく他者へ説明するような報告が強く求められます（これはゼミでも養っていきます)。過去のゼミでは、ゲーム理論の基礎、行動経済学、マッチング理論、オークション理論などをテーマとして扱ってきました。4 年次では、個別のテーマに基づいて研究報告を行い、ゼミ生・教員との議論を通じて卒業論文の完成を目指します。

本ゼミでは、受け身ではなく自立的・能動的な学習態度が強く求められ、報告の準備のためにある程度の時間も必要となります。また、ゼミ生一人一人が何らかの役割を持ち、ゼミの行事には積極的に参加することも求められます。

坂本　陽子　ゼミナール

演習のテーマ

空間経済学、データ分析

演習の内容

※ゼミは 3 年生と 4 年生合同で、2 限連続で行います。火曜 3 限を空きコマにできる人のみ応募してください。（再開ゼミのため、2027 年度は 3 年生のみです。）

本ゼミ

本ゼミは火曜 2 限に行います。2027 年度は、教員が選んだ英文記事についての発表や、Stata を使ったデータ分析の演習を行います。

サブゼミ

サブゼミは火曜 3 限に開講し、主にグループワーク（3 年生）や卒業論文（4 年生）に取り組んでもらう予定です。グループワークの成果は、11 月のインゼミで発表してもらうほか、12 月にグループ論文として提出してもらいます。

卒業論文

卒論では、原則として 3 年次で学んだ Stata を用いてデータ分析を行います。卒論のテーマは、担当教員が指導可能なものであれば学生の興味に従って自由に設定できます。

その他

この演習では、学期中の通常のゼミ活動のほかに、夏合宿、OB 会、インゼミなどの課外活動があります。これらの活動は、ゼミ生が主体となって運営するものです。ゼミ活動は時間的拘束を伴うということを理解した上で、積極的にゼミに取り組む意志のある学生を 7 期生として募集します。

白井　誠人　ゼミナール

演習のテーマ

ビジネススキルの研究

演習の内容

ゼミ生の就職活動や卒業後のビジネス能力を考慮し、以下の内容を予定しています。

３年生：　近年の産業・企業研究の成果を踏まえ、論理思考力やコミュニケーション力等のビジネス基礎力を学修しながら、企業経営者が求める人材と能力について考察します。就職面接時に「大学時代に何を学んだのか」「将来への自己投資として何をしたのか」を明確に説明できるように鍛錬します。

応用課題として、大学生活や就職、問題解決等についてのディスカッションテーマを少人数チームで議論し、各チームの結論を個別に発表した後、全員で検討するグループディスカッションを行います。

また、夏休みに就職希望業種・企業の歴史、現状や展望、課題等の情報収集および分析作業を進めてもらい、秋学期の講義で経済指標や各種資料を用いた業界分析の発表、相互の志望業界の情報交換および議論を予定しています。

４年生：　自分の就職先企業や仕事内容をより深く考察するために、３年次で養った基礎知識を下地にして企業研究についての代表的文献を要約してもらい、分析視点や手法の土台を構築します。その土台を立脚点として、卒業後、実際に就業して所得を得ることになるビジネスの収益メカニズムや企業組織の構造、業界での位置付け等を考察、将来の予測分析を試みます。

高松　慶裕　ゼミナール

演習のテーマ

財政学，公共部門の経済学

演習の内容

財政学は，狭義には政府が資金をどのように調達し，どのように支出するか，を研究する学問で，広義には政府（公共部門）の経済活動を対象にした経済学です。主たる研究対象は，租税（所得税，消費税，法人税など），公債（財政赤字，財政再建など），社会保障（年金，医療・介護保険，生活保護など）や地方財政などですが，他にも予算制度や経済政策などカバーする領域は多岐にわたります。ゼミでの研究テーマは，広く公共部門の経済学の中から学生主体で決めてもらいます。

ゼミの進め方は以下のとおりです。

3 年生：最初に財政学の基本的な教科書を輪読し，基礎理論や考え方，制度について学び，何が問題かを考察します。その後（同時並行で），4 名前後のグループ毎にテーマを設定してもらい，共同研究を行います。その成果は論文にまとめ，11～12 月頃の他大学との合同ゼミで発表します（2027 年度について現時点で未定ですが，例年，静岡県立大学金目ゼミ・広島修道大学河合ゼミ・大阪学院大学原田ゼミとの 4 大学合同ゼミを開催しています)。学期末の学部ゼミ研究発表会でも発表します。加えて，各自テーマを設定し，年度末までに卒業論文に向けた中間論文（1 万字以上）を提出してもらいます。

4 年生：各自のテーマに基づき，卒業論文（2 万字以上）を作成します。春学期は 3 年時に提出してもらった中間論文の添削指導から始めます。その後は，4 年ゼミでの進捗報告や 3・4 年合同ゼミでの卒論中間報告（11 月頃），個別指導を経て，卒業論文を完成させていきます。卒業論文提出後の 1 月には卒業論文発表会を開催しています。

高松ゼミの基本方針は「論文を書くこと」にあります。グループの共同論文，中間論文，卒業論文と最低 3 回は書く機会があり大変かもしれませんが，勉強になるはずです。財政学（または経済学）の領域から自分（達）自身で問題を設定し，それを経済学的に分析し，結果を論理的に表現できるようになることを目指します。

ゼミの恒例行事として，歓迎会・懇親会や夏合宿なども行っています。特に共同研究を学外で発表する（他大学との合同ゼミを行う）ためには，ゼミ生一人一人がゼミ運営に積極的になり，主体的に関与する必要があります。このゼミを教員とともに作り上げてくれる熱意のある学生を求めます。2026 年度は教員が研究サバティカルを取得中です。過去のゼミ活動の様子を知りたい人は高松ゼミのインスタグラムを見てください。

田中　鉄二　ゼミナール

演習のテーマ

食料・環境・エネルギーの経済学

演習の内容

経済を通じて、地球規模の課題に挑む

本ゼミでは、現代社会が直面する「食料・環境・エネルギー」問題を、経済学の視点から多角的に分析し、持続可能な社会のあり方を考えます。地球規模で進行する気候変動や食料安全保障、資源の枯渇といった課題に対し、実証データと理論に基づいたアプローチを重視しています。

活動内容

3 年生では、英語で書かれた最新の経済学論文を輪読し、英語でのプレゼンテーションに挑戦します。論文の内容を正確に理解し、背景にある経済理論や実証手法を解説する力を養います。プレゼンはすべて英語で行うため、国際的な情報発信力の強化にもつながります。

また、Excel を用いた簡単な統計分析も行い、データを「読み」「示す」力を身につけます。初歩的な回帰分析やグラフ作成を通じて、経済データの扱い方に慣れていきます。

4 年生になると、各自が関心のあるテーマで卒業論文に取り組みます。3 年生の段階からテーマ選定と分析の準備を進め、中間発表を通じてフィードバックを受けながら論文を完成させていきます。

キャリア形成支援

将来の就職活動を見据え、企業分析の基礎として「決算書の読み方」「四季報の活用方法」なども学びます。経済学の知識を社会で実践的に生かす力を養うことも、本ゼミの大切な柱の一つです。

このゼミに向いている人

- グローバルな視点で社会課題に取り組みたい人
- データを用いた分析に興味がある人
- 英語での情報発信力やプレゼン力を伸ばしたい人
- 自分なりの問いを持ち、それに答えようとする意欲のある人

経済学の知識を実社会の問題に応用し、「考える力」「伝える力」「調べる力」を育てる場として、意欲ある皆さんの参加をお待ちしています。

土屋　拓也　ゼミナール

演習のテーマ

実社会のビッグデータ解析と統計的推定

演習の内容

【ゼミの概要と目的】

本ゼミナールでは、実社会にあふれる「ビッグデータ」の解析に挑戦します。数万件以上の大規模なデータを統計解析によって整理・分析し、データに隠された特徴を明らかにします。さらに、データの特徴からモデルを構築し、見えていない領域や未来の予測（推定）を行います。最終的には、分析結果から面白い経済学的な結論や主張を導き出すことが理想です。

【3 年次：基礎を学ぶ】

大規模なデータを扱うため、データ解析に欠かせないプログラミング言語「Python（パイソン）」を学びます。基本的な使い方から統計の知識まで、段階を追って丁寧に指導します。

【4 年次：実データに挑む】

3 年次で身につけたスキルを武器に、実際のデータ解析に取り組みます。現在、以下のデータを用意しています。

- **全国の美容室のデータ**
- **クックパッドのデータ**
- **メルカリのデータ**

（※これら以外にも、選べるデータはあります。どのデータを使うかは、3 年次の終わりに相談して決めましょう）

【求める人物像】

ゼミでの研究を進める中で、新しい疑問や壁には必ずぶつかります。そのため、**現時点で数学やプログラミングの知識がなくても全く心配いりません。**「わからないことも、自分で主体的に調べて学んでいこう」という熱意と意欲のある方の応募をお待ちしています。

中野　聡子　ゼミナール

演習のテーマ

経済学史、経済思想史、現代経済学の思想背景

演習の内容

この演習は、経済学史・経済思想史をベースにしながら、現代に到るまでの経済学の基本的な考え方を習得することをねらいとしています。つまり、経済理論や思想が、どのような時代や場所で、どのような文脈で出てきたかを参照しながら、現代の経済学の理解を深めようとします。さらに、現代の経済学の問題点や可能性を探るために、様々な学説の限界と意義を検討します。したがって、経済学に今ひとつ理解できない部分がある、あるいは、もう少しその意味を深く考えたいというような問題意識のある学生の参加を想定しています。 例えば、経済学という学問はどのような経緯で誕生したのか？A.スミスは、経済自由主義をどのような思想で捉えていたか？ J.M.ケインズの経済政策は、どのような思想に裏付けられて登場したのか？F.ナイトは、不確実性をどのように捉えたか？企業の役割や機能を、経済学ではどのように捉えてきたか？経済学の実証的な方法は、どのようにして現れてきたか？など、ミクロ経済学やマクロ経済学の背景にある経済学の考え方を総合的に見ていきます。

2027 年度は、春学期中に経済学の歴史を概観し、夏休みから秋学期にかけて、特定のテーマを研究します。特に、20 世紀初頭の現代経済学の形成を、J.M ケインズ、F.Y.エッジワース、A.マーシャルなどを中心に、経済思想、経済理論史を検討します。ゼミでディスカッションやプレゼンテーションを実践したい。経済学の本や論文をきちんと読んで、経済学の考え方を吸収したい。文献を検索して、体系的に整理する方法を習得したい。ゼミの仲間と交流し、大学での人とのつながりを大事にしたい。以上のことを意欲的に取り組む学生の参加を希望します

中村　友哉　ゼミナール

演習のテーマ

合理的な行動と非合理的な行動の分析（情報の経済学、行動経済学）

演習の内容

このゼミでは、人間の「合理的な行動」と「非合理的な行動」を学び、経済学を日常生活に応用するトレーニングを行います。

「合理的な行動」は担当教員が開講する「情報の経済学１、２」で学習します。情報の経済学はゲーム理論を発展させた分野です。合理的な人間を想定して、不確かな情報のもとでの「かけひき」を分析します。情報の経済学の学習によって「**かけひきを合理的に分析する力**」を身に付けます。ゼミは「情報の経済学１、２」の内容を前提に進めます。

ゼミの時間は、行動経済学のテキストを輪読します。行動経済学は、心理学の知見を経済学の枠組みに取り入れて、人間の「非合理的な行動」を分析する分野です。計画の先送りやダイエットの失敗といった「意志の弱さ」は、非合理的な行動の代表例です。行動経済学を学ぶことで、「**非合理的な行動と付き合う方法**」を身に付けます。

また、ゼミではチームでテキスト内容を発表するだけでなく、ビブリオバトル（本を紹介し合うゲーム）など、プレゼンの機会を多く作ります。プレゼンを通じて、相手に自分の考え方や意見をわかりやすく「**伝える力**」を身に付けます。

教員と現在の所属学生、そして、新しく加わる学生がお互いに協力して、ゼミを作っていきたいと考えています。人それぞれに得手不得手があります。その中で、自分なりに貢献できることを見つけて、ゼミ活動に協力的に取り組んでいける人を歓迎します。

五十嵐　千尋　ゼミナール

演習のテーマ

日本経営史・日本経済史・産業史

演習の内容

このゼミでは、日本経営史上における様々な企業のケーススタディを学んでいきます。そのなかで、企業の成長に関する基礎的な知識や、論理的な思考を習得することを目指します。そして自らの学びや思考をまとめて文章化し、他者と共有することが出来る能力を身につけること、自ら情報を集めて思考し、議論することを目的としています。

3 年次の演習 A1 では、テキストをもとにいくつかの日本企業のケーススタディを学びながら、文章でレジュメを作成し、報告、ディスカッションをします。我々は常日頃、メールなどで文章を作成していますが、学術的な文章はなかなかすぐには書けるようになりません。インプットとアウトプットに慣れていきましょう。また様々なジャンルの企業の歴史に触れながら、自分は何に関心があるのか、視野を広げていきましょう。

続く演習 A2 では学生と相談しながら何を行うか決定します。例年卒業論文の執筆に向けて自らテーマを設定し、テーマに関する先行研究を整理し、自身の卒業論文がもつ学術的、社会的意義を検討して 1 万字の論文執筆に挑戦していますが、希望によっては先行研究のサーベイを重点的に行う年もあります。先行研究のサーベイはゼミ生自身の関心によって収集した先行研究を、毎週ゼミ生みんなで読み、論文の意義や疑問等について検討を行います。

4 年次の演習 A3・A4 では、各自が興味を持った事象について卒業論文のテーマとして定め、3 年次の経験を生かして自らの問題意識から課題を設定、実証を行い、卒業論文を執筆します。主に個人で作業を進めていくことになりますが、定期的にゼミで作業の進捗を報告し、全体での中間報告も行います。演習 A4 では卒業論文の完成を目指します。

企業博物館や工場見学、国会図書館への訪問といった課外活動を考えています。参加は任意です。ゼミ生から訪問先に希望があればそれに沿う形で行いたいと思います。

稲山　健司　ゼミナール

演習のテーマ

経営戦略論・経営組織論

演習の内容

このゼミナールでは、企業における多様な現象（戦略策定・実行、イノベーション、新製品開発、企業革新など）を理解するためのスキルを修得することを目指します。そのために、以下を学習の柱とします。

- 経営戦略論、経営組織論などに関する文献を読みます。文献の検討を通じて、経営現象を理解するための基礎的なコンセプトとフレームワークを獲得することを目指します。

- 事例研究を行います。事例研究では、経営現象を経営戦略論・経営組織論の視点から分析することを目指します。食品、飲料、化粧品、家電製品、コンビニエンスストア、飲食店、テーマパークなどに関する事例を扱いました。

尾畑　裕　ゼミナール

演習のテーマ

原価計算、管理会計、（＋Python）

演習の内容

ここ数年の生成 AI の進歩は目覚ましく、会社の業務で生成 AI の利用は当たり前になってきています。皆さんには、生成 AI をうまく積極的に使いこなしていく能力を身につけて欲しいと思っております。尾畑ゼミは、システムと会計の両方に強い人材の養成を目指しています。こういった人材は、非常に社会に求められていますが、稀少です。本ゼミでは原価計算や管理会計が 3 年時の主テーマになります。ただ、ゼミの活動の大部分は生成 AI を活用して Python を使ったプログラムの制作に当てられます。原価計算と聞いて、資格試験や検定試験の試験科目を連想し、常に電卓をたたいているイメージを持つかもしれません。しかし、実務で行われている原価計算は多様であり、試験問題を解く作業とは全く異なります。決まったパターンを適用するだけでは終わりません。より本質的な理解とシステム構成力、創意工夫が求められます。

3 年次の春学期は Python を使ってオブジェクト指向の考えかたで原価計算を構築します。すなわち原価計算を構成する様々な概念をクラス（型）として定義して、それを組み合わせて計算のロジックを組み立てていきます。それにより本質的理解と応用力を身につけます。電卓片手に計算を行う原価計算のイメージとはずいぶんと違います。

プログラミング技能の入門の頃は退屈であるため、この段階で躓いてしまうことがかつては非常に多かったのです。しかし、生成 AI の活用によってこの最初の退屈な時期を簡単に乗り越えることができるようになりました。生成 AI が提案するプログラムを単にブラックボックスとして受け入れるのではなく、その意味を理解し、評価できるようになってもらいます。それを通じて生成 AI をうまく使って、質の高いプログラムを生み出していく能力を養成します。もちろん現時点で、プログラミングは、はじめてというひとでも心配はいりません。3 年次の秋学期からは、経営組織のなかでおこる現象をエージェント・ベース・モデル（ABM）のシミュレーションで再現する実験を行います。管理会計の問題を、シミュレーションを使って解明していく研究は、まだまだ新しい研究分野ですが、非常におもしろい領域です。みなさんにもシミュレーションで組織現象や管理会計問題を分析する楽しみを味わっていただきたいと思います。もちろんシミュレーションのプログラムも生成 AI を活用して制作します。

4 年次には、卒業論文に向けて個別テーマでの報告をしていただきます。3 年次に習得した生成 AI を活用した Python プログラミングをフル活用して、非常にオリジナリティのある管理会計研究に取り組むことができると思います。

夏休み中には夏合宿を行ないたいと思っております。

佐藤　成紀　ゼミナール

演習のテーマ

企業情報を活用した総合的リサーチ

演習の内容

当ゼミナールでは、3 年次の春学期にまず、ビジネス界で求められている英文決算書を理解する力を養うため、英文の教材を用いて基本的な知識を習得します。演習のテーマである、「企業情報を活用した総合的リサーチ」を行う場合には、世界中の企業情報にアクセスすることになりますから、そのための第一歩となります。それに続いて、個人のプレゼンテーションを行い、各自の関心のあるテーマでの発表が、とても楽しく、やりがいのあるものであることを体感してもらいます。

3 年次後半からは、個人のプレゼンテーションを本格的に開始することになります。報告内容については、企業経営やマーケティング的な情報、そして利益動向などの会計データといった、企業に関する情報を自由に組み合わせて、総合的なリサーチを行って下さい。もちろん、その場合のテーマ選びは試行錯誤があってよいので、報告テーマは各自の関心に従って、随時、変更して構いません。3 年次は、卒論へ向けてのテーマ探しの時期と位置付けています。

4 年次では、だんだんと各自のテーマを絞っていってもらい、卒論の執筆に向けたプレゼンテーションをしていきます。ゼミ生相互のディスカッションを通じて、報告する一人ひとりが、自身では気づかなかったアプローチ方法や、深掘りすることで卒論をより充実させることのできる課題を発見することができます。

こうした 2 年間のゼミナール活動を通じて、卒論の完成までの一貫したプロセスを経験することで、きっと皆さんの今後に大いに役立つ、「自信」をつけてもらえることと思います。

西村　三保子　ゼミナール

演習のテーマ

管理会計、企業分析

演習の内容

企業会計は、企業に関する取引データを収集し、処理し、それらを情報として企業内外の情報利用者に伝達する役割を果たしています。経営管理のために主に企業内部のステークホルダーを情報利用者とする管理会計と、利害調整のために主に企業外部のステークホルダーを情報利用者とする財務会計に大別されます。

管理会計目的に会計システムが提供する情報は、実績記録、注意喚起、および問題解決に分類できます。つまり、管理会計情報は、企業の経営管理者が経営管理のために活用する会計情報なのです。

本ゼミでは、テキストにもとづいて、管理会計や企業分析の様々なトピックについて全員参加で議論していきます。報告者以外のゼミ生も議論に積極的に参加することが大切です。どんな意見でも大歓迎ですので、ゼミが明るく活発な意見交換の場になるよう、皆さんで協力し合いましょう。

3 年次春学期には、基礎知識の習得を目指してテキストを輪読するとともに、毎回レジュメを作成し報告します。秋学期には、12 月のインゼミ（他大学との合同報告会）での報告に向け、グループに分かれて調査・研究を進めます。

4 年次は、春秋通して卒業論文の執筆に努め、1 月の卒論提出を目指します。

また、9 月に 3・4 年生合同の夏合宿を予定しています。

ゼミ活動を通じて、皆さんが学問上の知識を増やすだけでなく、長い付き合いができる大切な仲間と出会えるよう願っています。ゼミがそのような素晴らしい場となりますように…。

浜口　幸弘　ゼミナール

演習のテーマ

企業戦略と人工知能 AI

演習の内容

当演習では、経営戦略の考え方（必要に応じてマーケティングも）を十分に学習したうえで、企業戦略（主に、マーケティング戦略）に人工知能（AI）を利用する方法について、考察してゆきます。すなわち、利用者側の立場から人工知能の仕組みを基礎から理解し、さらに行動心理学の学習を踏まえたうえで、人工知能を用いた企業戦略（主に、マーケティング戦略）の実際と可能性を扱うことにします。それと同時に、議論できる力と説明能力を身につけられるよう指導します。

初年度前半では、経営戦略に関する教科書読み進め、随時、企業の調査分析を行います。このとき、演習問題および事例研究（自分で調べて報告）を通じて、理解を深めてゆきます。後半では、AI の基礎的な本を読み、その基本的仕組みを理解したうえで、行動心理学の視点から AI の思考を分析し、最終的に、マーケテイング分野への AI の利用を考察します。なお授業を補う形で、状況が十分よければ、3 月下旬（2 年次）と 9 月下旬（3 年次）にゼミ合宿を行う予定です。

本ゼミナールでは、以下の学生を希望します。

1. 人工知能と人間の思考の違いについて興味を持っている学生
2. 学生時代に AI の知識を身につけたい学生

教科書は『経営戦略入門』（日本経済新聞社）

人工知能および行動心理学に関する本については、適宜選択。

森田　正隆　ゼミナール

演習のテーマ

情報技術とマーケティング戦略

演習の内容

本ゼミナールは、「情報技術とマーケティング戦略」の関係について考察し理解を深めていくことによって、これからの情報社会を自分自身で分析して意思決定し、そして創造的に行動していけるだけの知的能力・価値観・行動原理・人間性を養うことを目的としています。

輸送や通信の分野における技術革新は、社会体制はもちろん、生産と消費の両面に対しても創造的破壊をもたらし、次代の扉を聞く強力なパワーを秘めています。

そこで、本ゼミナールでは、情報技術とマーケティングの関係について、過去の歴史や理論から学ぶとともに、現在世の中で起こっているさまざまな経済事象や経営問題を取り上げ、それらを理論的かつ経験的に考察し分析するという作業を繰り返しおこなっていきます。

また、ケースディスカッション、ロールプレーイング、ショートスピーチ、ビジネスプランなどの体験型・参加型の授業を数多くおこないます。

自主的なグループ研究活動も含めてゼミのために割いていただく時間とエネルギーが若干多めになります。それらの負荷を納得できる方や、内容の充実したゼミナールを研鑽と成長の場として前向きに捉えることができる方に応募していただけると幸いです。

本ゼミに関して疑問や質問のある方がいらっしゃいましたら遠慮なくお気軽にメールでご連絡ください。喜んで対応いたします。

<最近の卒論タイトル例>

- 割引や増量によってお買い得感が高まる時もあれば不信感が高まる時もあるのはなぜか：知覚品質と価値が消費者の販促施策に対する反応に与える影響
- 素顔の「裏垢」とよそ行き顔の「本垢」を SNS 上で使い分ける理由は何か：認知的共感力と情動的共感力がペルソナの厚さに与える影響
- 娯楽作品の聖地巡礼現象はどのようにして発生し継続するのか：現実性・共感性・想像性が消費者の視聴後行動に与えるメカニズム
- 「中の人」の存在が前面に出た企業公式 Twitter アカウントの成否を左右する条件や要因とは何か

<note>　https://note.com/mamorita

吉田　真　ゼミナール

演習のテーマ

ドイツ語圏における文化と社会の関係を考える

演習の内容

テーマについては、担当者の指導できる範囲である限り、参加者の希望、関心をできるだけ広く取り入れたいと考えている。

基本的にはドイツと日本を比較しながら文化と社会の関係の問題を考える。たとえば過去に取り上げてきたテーマとしては、ＥＵの成立と今後について、ユーロ危機、環境問題と原発の是非、学校教育、ドイツの自動車産業、ドイツの食文化、音楽と劇場文化、サッカーのブンデスリーガとＪリーグ、ドイツと日本の戦後の憲法といったものがある。こうした問題について自由に議論をしてゆく。

Ｂゼミなので卒業論文はないが、卒論に準ずるようなレポート作成を目標とする。

渥美　利弘　ゼミナール

演習のテーマ

日本と世界の貿易

演習の内容

国際貿易を経済学の視点から学び、貿易データを使って、日本とある国、またはある商品に関する日本と世界の貿易に関する卒業研究をします。
より具体的に、ゼミで学ぶ内容には下記が含まれます。
・そもそも貿易が発生する理由、その際の貿易のパターン（何が輸出され何が輸入されるのか)、貿易が行われたときの経済的影響、貿易政策
・貿易統計の使い方（データの収集、整理、加工、グラフ化等を含む）
・貿易統計の分析
以上の学習・研究を通じて、貿易の理論と実際を学びたい学生を募集します。

私自身は産業立地に関する応用理論的な研究や、最近は働き方とグローバル化、サービス貿易、自動車貿易そして偽造品の問題などについて、経済学の視点から研究をしています。私の関心分野やこれまでの研究について、詳しくは下記に一覧がありますので参照してください。
https://gyoseki.meijigakuin.ac.jp/mguhp/KgApp?resId=S000333

李　恵源（イ　ヘウォン）　ゼミナール

演習のテーマ

韓国の社会と文化

演習の内容

本ゼミナールでは、韓国の歴史・政治・経済・社会・文化や日本との交流などについて学びながら、日本にとって「重要な隣国」である韓国への理解を深めていくことを目標とします。

3 年次のゼミでは、以下のテーマを中心に関連文献を読み、ブックレビューを作成し、プレゼンテーションを行なってもらいます。また各学期 1 回、フィールドワークも実施します。

○ テーマ

- 朝鮮半島の歴史
- 日本と朝鮮半島の交流史
- 韓国の伝統的な芸術・建築・遊びなど
- 朝鮮半島における地域別の食文化
- 韓流ブームの歴史
- 現代韓国の経済発展
- 激変する現代韓国の政治
- ノーベル文学賞受賞作家ハン・ガンの作品探索
- 在日コリアンの歴史と現状
- 日本に進出した韓国企業に関する調査　など

○ フィールドワーク:

・春学期：東京新大久保のコリアンタウン

・秋学期：東京にある韓国企業訪問

4 年次のゼミでは卒業論文の作成を中心に行います。上記のテーマの中から論文のテーマを決め、関連文献を収集・調査しながら理解を深めたうえで、論文の構成（アウトライン）を作成し、執筆を進めていきます。毎回のゼミでは、その進捗状況を報告します。

井川　ジェニファー　ゼミナール

演習のテーマ

Leaders Worth Following: *A Seminar on Leadership and Character*

演習の内容

Who is worth following?

This is one of the most important questions you will face in your career. It is also one of the hardest to answer. This seminar will help you find your answer.

We read powerful works of fiction — such as stories by Louis Auchincloss and Robert Bolt's *A Man for All Seasons* — and ask: what makes a good leader? What kind of person should you trust? What kind of leader do you want to become?

Fiction is a surprisingly useful tool for this. It shows us a complete person — their strengths, their weaknesses, and the choices they make under pressure. Learning to understand the motivations of characters in books helps you understand real people in real workplaces.

In the **first year**, you will read, discuss, and write about leadership and character. You will practice sharing your opinions and building arguments in English. As the year goes on, you will take turns leading class discussion — because leadership starts in the classroom. *The ability to discuss leadership, explain your values, and express your ideas clearly in English are also skills that will help you stand out during job hunting.*

In the **second year**, you will research and write a graduation thesis on a leadership topic that interests you. This is a serious piece of academic writing in English — *evidence of your ability to think independently and see a large project through to the end.*

By the end of this seminar, you will be better at judging people, clearer about your own values, and more confident in English. Most importantly, you will have a better answer to the question we started with: *who is worth following — and what kind of leader do you want to become?*

大野　弘明　ゼミナール

演習のテーマ

Financial Economics

演習の内容

【学習内容】
本演習では以下の二点を学びます。
・ファイナンスの標準的な内容を体系的に習得すること。
・コンピュータを用い、株価、利子率及び財務会計データなどの取り方、分析方法、データの解釈方法を習得すること。

【到達目標】
以上二点を習得することによって、『進路決定と卒業論文』を仕上げることを到達目標とします。

【ゼミでの２年間】
学生間の対話を重ねることを通じて得られるものは、上述の内容以上に大きな価値があると個人的に考えています。これまで懇親会、夏期・冬期ゼミ合宿、OBOG会などを実施してきました。企画から参加まで各学生に任せますが、ゼミの一員として積極的に参加し行動することを期待します。私もなるべく参加するようにします。

【OB・OG の進路】
卒業生は金融、不動産、建築、商社、アパレルなど多岐にわたって活躍していますが、銀行、保険会社、証券会社への就職比率が相対的に高いです。 また、国内外問わず進学するという選択肢もあります。

【注意点】
本ゼミナールでは計算を避けて通ることが出来ません。現在出来ないことは全く問題としませんが、基礎から学習しますので徐々に慣れて下さい。ただし、高度な数学力を求めると言うよりは金融経済に関する直観的な思考と理解を高めることに重きを置くつもりです。

岡崎　哲二　ゼミナール

演習のテーマ

日本の経済発展に関する実証研究

演習の内容

このゼミでは、日本の経済・産業・企業を長期的視点から理解することを目指します。日本が非西欧諸国・地域の中でいち早く経済発展を実現し先進国に成長したのはなぜか、どのような産業・企業が経済発展を牽引したか、企業家・業界団体・政府などのアクターの役割は何か、日本の経済発展と他の先進諸国の発展パターンと共通点と相違点は何か、第2 次世界大戦後に日本の経済成長が加速したのはなぜか、経済成長の成果はどのように人々の間に分配されたか、経済発展は政治にどのような影響を与え、逆に政治は経済発展にどのように影響したか、1990 年代以降、経済成長が減速した日本の経済・産業・企業が直面している課題は何か、など長期的視点から見ると日本の経済発展には、興味深く、重要な問題がたくさんあります。

これらの問題に関する先行研究を読み、今後研究すべき残された課題について考えて行きます。あわせて、先行研究をもとに、問いの立て方、データの収集の方法、データの計量分析の方法について学習します。これらの学びをもとに、日本の経済・産業・企業について研究すべき問いを立てて、卒業論文でその問いについて研究します。また、課外授業として、東京大学経済学部資料室・図書館の見学等も行います。経済学科・経営学科・国際経営学科から広く参加者を募集します。

工藤　健太　ゼミナール

演習のテーマ

経済・経営のデータ分析について学ぶ

演習の内容

近年、意思決定や場で、エビデンスを示すことが重要視されつつあります。この流れを受けて、ビジネスや政策の場でもデータ分析が果たす役割が大きくなりつつあります。本ゼミナールでは、統計学や計量経済学を中心としたデータ分析の知識を習得し、卒業論文を執筆することを通じて、就職先や進学先でこれらの知識を活用するための準備を行います。

(演習の進め方)

・3 年次: 教科書を輪読し、プレゼンを行います。統計学・計量経済学の知識について整理し、Excel や R などのソフトウェアの使い方を学ぶ時間を設けます。

・4 年次: 卒論の研究テーマを決め、データの収集や必要な知識の習得に注力します。定期的に研究の経過報告を行います。

(卒論研究のテーマ)

データを用いた研究であれば、卒論研究のテーマ・内容は参加者の自由です。過去の卒業生は、企業の ESG 投資の決定要因の分析、航空会社の財務状況とその決定要因の分析、鉄道駅の乗降客数の決定要因の分析などを行いました。

(卒業後の進路)

過去の卒業生は、IT、金融業などに就職されています。経済学研究科をはじめとした大学院進学希望者も歓迎します。

(受講にあたっての注意)

・報告者(報告グループ)は特別な事情を除き、欠席は認められません。

・本演習では、データ分析というテーマを設定している都合上、数学の知識や PC スキルが必要になることがあります。ただし、あくまでも数学や PC を勉強するゼミではなく、どのようにそれらを使うのかに重きを置きます。

藤田　晶子　ゼミナール

演習のテーマ

企業分析－企業の経営戦略と財務情報―

演習の内容

開示規制や情報を理解し、その活用をつうじて企業の経営戦略を分析し、成否を検証する力の習得を目的とする。具体的に、次の内容を想定しているが、学生諸君にも相談しながらすすめていきたい。

1．各国における資本市場と開示規制
2．経営戦略の成否とそれが財務数値・株価にあたえる影響
3．ブランド力・技術開発力とそれが利益にあたえる影響
4．企業結合取引(M&A)におけるのれんの評価とその推移
5．利益操作手法と株価

などなど。

マイヤーオーレ ヘンドリック　ゼミナール

演習のテーマ

International Business, Marketing and Retailing, Human Resources

演習の内容

In this seminar, we will explore how companies structure and manage their international businesses. Why and how do companies enter foreign markets, how does this affect their organization, how do they organize the management of human resources? Participants will examine these aspects through case studies of various companies, whether they are based in Japan or overseas. We will work with written materials, but research might also include interviews with managers or even the observation of the stores of foreign retailers in Tokyo.

Activities in the seminar will include:

1. Developing research questions and designing a research plan.
2. Learning how to find good information sources.
3. Analyzing information by using available frameworks from business and academia.
4. Confidently presenting findings through presentations and reports.
5. Working together and discussing with others

In addition to developing your analytical and presentation skills, I aim to foster your ability to interact and collaborate with individuals of different nationalities. This will be achieved through opportunities to engage with business professionals and to participate in joint projects, both online and in person, with students from universities outside of Japan.

松園　保則　ゼミナール

演習のテーマ

Public Speaking

演習の内容

This seminar course focuses on various aspects of public speaking. Through two years of seminar activities, students will master the fundamental principles of public speaking in English and develop their own engaging speaking styles for public presentations. In addition, the seminar aims to prepare students for their future careers by fostering confidence and professionalism in public speaking.

During the third year (2027), students will learn the fundamental principles of public speaking using assigned textbooks. They will also analyze professional speakers as case studies, engaging in group discussions and public speaking exercises in the classroom. Furthermore, in preparation for writing their graduation thesis in English in their final year (2028), students will write multiple drafts of essays supported by logical arguments and evidence from texts.

In the fourth year (2028), students will explore the theoretical aspects of public speaking in greater depth, including text organization, linguistic features, delivery techniques, and psychological factors. They will apply these concepts when analyzing the performances of public speakers and will select and examine several speakers using these criteria to develop their own professional speaking styles. The insights and findings from these analyses will be incorporated into their graduation thesis.

Throughout the two-year seminar, students are expected to actively participate in group and class discussions conducted in English.

山田　純平　ゼミナール

演習のテーマ

グローバル企業の分析と国際会計

演習の内容

本演習では、決算書を通じてグローバル企業の経営分析を行い、さらに会計基準の国際的な動向について学びます。その過程で、企業会計についての基礎事項について習得できます。

グローバル企業の経営分析では、海外企業の決算書を分析し、その分析をもとに、どのような経営戦略をとっているかについて検討します。決算書の分析だけではなく、将来を予測して、企業価値の算定まで行うこともあります。まずは、企業分析や企業価値評価について 説明した本を読んだ後、各自が海外企業を分析し、その結果を報告してもらいます。

国際会計の分野では、ルールが国際的に収斂する一方で、各国でそのルールがバラバラに適用される傾向にあります。そこで、企業会計のルール全般を学べる教科書を題材として、国際的なルールの動向を学んだうえで、各国でそのルールがどのように適用されているかについて検討することを目標とします。

その他に、例年は他大学との研究報告会で報告をしてもらっています。共同で報告する作業を行うとともに、大人数の前で報告し質疑応答ができることを目的としています。3年秋学期に留学に行く学生については、研究会での報告は免除します。またゼミの人数が少ない場合には、相談のうえ報告会には参加しないことにします。

最後に、これらの勉強の総仕上げとして、卒業論文を執筆することになります。1 年間かけて論文を執筆することにより、論理的な思考力が鍛えられるので、卒業論文を執筆することを望みます。

ここまでは例年の演習の内容を書きましたが、参加者のニーズに合うように、演習のなかで相談したうえで、運営していきたいと考えています。

発　行　日：2026 年 9 月 1 日
編集責任者：齋藤　隆志
編　　集：明治学院大学 経済学部
〒108-8636
東京都港区白金台 1 - 2 -37